令和元年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

矢田（やだ）　覚（さとる）　（６０歳）　三重県立四日市西高等学校長
・公立高等学校教諭として地理歴史科・公民科教育の推進に尽力した。 ・三重県教育委員会事務局充指導主事、主査、副室長（兼充指導主事）、副課長（兼充指導主事）を務め、本県の教育活動の充実のみならず、本県教育行政の刷新に尽力した。 ・公立特別支援学校長として、特別支援学校東紀州くろしお学園では、開校以来、小学校の校舎の一部を利用し学校運営を行っていたが、関係機関や保護者との連携を深め、本校新築の計画・準備に携わり、平成29年度の円滑な移転に結びつけた。おわせ分校においては、平成26年度に多目的広場を完成させ、生徒児童の自主的な活動を促進できるように教育環境を整備した。公立高等学校長として、四日市西高等学校では、基本理念である「自主・自律をモットーに、地域から信頼される活力ある進学校」をめざし、強いリーダーシップを発揮して、安全で安心して学べる教育環境の創造に努めた。また、生徒一人ひとりの目指す進路実現ができるようにきめ細かな指導を継続した。 ・三重県立学校長会長、副会長、監事として同校長会の運営に尽力した。

令和元年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

森田（もりた）　定（さだむ）　（６０歳）　四日市市立桜中学校長
・公立中学校教諭として、四日市市及び三重郡の大規模校に在籍し、生徒一人ひとりの個性、家庭環境に応じた丁寧な生徒指導を進めた。教科指導については、社会科において効果的な資料提示を行い、生徒の意見を大切にした授業を展開して学力向上に努めた。また、平成元年から３年間、ブラッセル日本人学校に在外施設派遣教員として勤務し、生徒が日本と相違ない教育が受けられることをめざして、日本の社会情勢等の情報収集を行いながら、教育活動に取り組んだ。 ・三重県教育委員会事務局学校教育課充指導主事として、県内小中学校における道徳教育の充実に取り組むとともに、教科書採択に係る業務を適切に行った。 ・四日市市教育委員会指導課係長及び課長補佐として、市内小中学校の学力向上に向けて、全国学力・学習状況調査の趣旨を踏まえた授業改善や家庭学習の習慣化に尽力した。また、市内の各地域で保育園、幼稚園、小学校及び中学校が連携する「学びの一体化」の取組を進めた。これにより各校園の指導体制の改善及び教員の意識改革が進み、市内各学校の系統的な教育が推進されることとなった。 ・公立中学校長として、明確な学校づくりビジョンを示して学校経営に全力を注ぎ、市内全小中学校の範となるとともに、平成３１年４月から三重県小中学校長会長を務め、県内小中学校長の中心的な存在となってリーダーシップを発揮するとともに、三重県における教育課題の解決に向けて尽力している。

令和元年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

山本（やまもと）　究（きわむ）　（６０歳）　伊勢市立厚生小学校長
・公立小学校教諭として、早朝から登校する児童を迎えるなど、常に児童とのふれあいを大切にして、児童の生活実態を把握するとともに、家庭訪問により保護者の願いを把握することに努め、実態や願いに即した適切な指導を行った。また、基礎基本の定着を目指した補習授業に積極的に取り組み、児童の学力向上に尽力した。 ・伊勢市教育委員会教育研究所教育研究研修係長として、伊勢市内における教職員が抱える課題やニーズを的確に分析し、教職員の指導力及び授業力向上に資する研修講座を積極的に開催するとともに、適切な指導及び助言を行った。 ・公立小学校教頭として、校長の学校運営をよく補佐し、校務整理、児童への指導など、持ち前の研究熱心な姿勢と実行力によって、円滑な教育活動推進に尽力した。特に地域と学校を繋ぐ役割を重視し、積極的に地域に赴いて、学校教育活動の現状を紹介し、地域住民が学校に関心を抱き、訪問しやすい環境づくりに努めた。 ・公立小学校長として、学校教育の在り方、教職員の資質向上及び服務規律の確保について的確な指導助言を行いながら、教職員一丸となって取り組む明るく思いやりにあふれた学校づくりを進めた。研修では、道徳を中心に「学び合う喜びを求めて～主体的・対話的で深い学びの視点の授業改善～」をテーマとして、豊かな心と確かな学力を持ち、学び合う児童の育成に取り組んでいる。また、三重県小中学校長会副会長兼小学校部会長として県内の教育課題の解決に向けて尽力している。

令和元年度教育者表彰（文部科学大臣表彰）被表彰者の功績概要

水谷（みずたに）　浩三（こうぞう）　（６３歳）　学校法人暁学園　暁小学校長	

・昭和61年4月、学校法人暁学園暁小学校に入職し、爾来、建学の精神「人間たれ」の精神に基づき、教育活動全般にわたり、当校のグランドデザインを立案、提起、実践してきた。教科指導では教科担任制のもと、先導して教職員の指導に当たり、授業改善の任にあたった。とりわけ、アクティブラーニングを推進するICTの活用や情報教育、プログラム学習について特筆すべき実績を残した。

・教育実践テーマである「学び合い認め合い深め合い」のもとに児童間の豊かな関係づくりを通して、自尊感情や自己肯定感の醸成に努めた。長年、学年・教科・校務主任を歴任し、平成17年4月に教頭に就任してからは教科教育のみならず、児童の生活指導や情操教育に邁進した。特に国際理解教育の一環としての英語教育とユネスコ活動への取り組みは同人の功績によるところ大である。また、児童理解と保護者と保護者との連携を強めるためアフタースクールを平成25年に開設した。小中、幼小との「学びの連続性」と称する接続関係を学校間教育連携として位置づけ、長期的な視野に立った教育プログラムを確立した。

・平成22年4月に校長に就任し、同年私学協会理事として県内の私立小学校の教育の充実に貢献した。また平成23年4月には日本私立小学校連合会傘下の西日本私立小学校連合会理事に選任され、各種の講演会や研修講師に招聘され、ICT教育の研究開発に率先して従事し、初等教育における先駆的な活動を展開し、今日に至っている。